

2022年3月30日
一般社団法人 Jミルク

書籍『持続可能な酪農—SDGs への貢献—』 出版のお知らせ

Jミルクが企画編集した書籍『持続可能な酪農—SDGs への貢献—』（編著者＝木村純子・法政大学経営学部教授、中村丁次・神奈川県立保健福祉大学学長）が、中央法規出版株式会社から出版されました。12人の専門家らが、温室効果ガス排出削減、農業政策、栄養、学校給食、酪農教育ファーム、消費者意識など幅広いテーマで、海外の事例も交えて執筆しています。

編著者のうち、木村氏は「テリトリーに根ざした酪農のSDGsへの貢献—コモンズ精神が実現する地域活性化—」と題し、都市近郊型の酪農がいかにか持続可能な社会を実現し得るかの論理を提示。中村氏は「SDGs構築のための栄養と食事の役割」と題し、栄養改善がSDGs全体を下支えしていることや、持続可能性のある健康な日本食、それを支える栄養士・管理栄養士や栄養教諭といった制度なども含め「ジャパン・ニュートリション」について解説しています。

本書全体の構成は次の通りです。

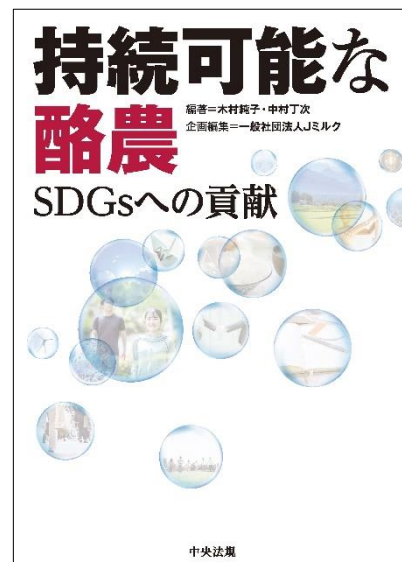
序章 酪農から考えるSDGs

第1部 日本酪農とSDGs

- 第1章 SDGs構築のための栄養と食事の役割
- 第2章 SDGsからみる学校給食牛乳の課題
- 第3章 酪農教育ファームが育むSDGs構築の資質と能力
—幼児期の実践事例から—
- 第4章 酪農における温室効果ガス排出の実態と削減の取り組み
- 第5章 テリトリーに根ざした酪農のSDGsへの貢献
—コモンズ精神が実現する地域活性化—

第2部 海外酪農とSDGs

- 第6章 競争戦略としてのアグロエコロジー的移行とSDGs
—フランス酪農部門を中心に—



第7章 オランダにおける持続可能な酪農

第8章 いま、消費者（市民）が求める持続的酪農の姿とは

第9章 持続可能な酪農を目指す各国の実践的取り組み

終章 日本酪農の持続可能な発展，その実現に向けて

本書は、「将来的に定着させることが特に重要な機能を整理すると共に、持続可能な社会に貢献し得る視点から強化すべき機能、改善すべき課題や機能、新たに取り組むべき課題を明確にして、日本における酪農セクターのモデル的な姿を提示する」（序章から引用）ことを狙いに、乳研究の学術組織である「乳の学術連合」が、2019～20年に実施した「酪農乳業のSDGsモデル構築」などの共同研究結果も踏まえて企画されました。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人Jミルク

学術調査グループ 伊藤

東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5階

電話：03-5577-7494